

## 『特集展示 斎藤義重 — 1980年代以降を中心に』出品目録

No.	作品名	制作年	素材・技法	寸法(タテ×ヨコ×奥行きcm)	所蔵
1	反対称	1980(昭和55)年	鉛	25.0×20.0× = =	個人蔵
2	反対称	1980(昭和55)年	鉛	25.0×20.0× = =	個人蔵
3	三角体 P	1982(昭和57)年	鉛	58.5×48.5×3.0	個人蔵
4	三角体 Q	1982(昭和57)年	鉛	58.5×48.5×3.0	個人蔵
5	三角体 S	1982(昭和57)年	鉛	58.5×48.6×3.0	個人蔵
6	複合体 101	1983(昭和58)年	ラッカー, 木・ボルト	c.395.0×405.0×470.0	千葉市美術館
7	T/S—遊牧	1984(昭和59)年	ラッカー, 木・ボルト	c.395.0×555.0×360.0	富山県立近代美術館
8	Seisaku ing	1985(昭和60)年 (改修:1996)	ラッカー・チョーク油彩, 木(合板ほか) ・ボルト・プラスチック・布ほか	c.220.0×350.0×320.0	千葉市美術館
9	Black Box 3	1991(平成3)年	ラッカー, 木・ボルト・ローブ	c.141.0×260.0×23.0	千葉市美術館
10	トロウツド	1993(平成5)年 (原作:1940)	ラッカー, 合板	112.0×139.0×12.0	富山県立近代美術館
11	Link 2	1994(平成6)年	ラッカー, 木・鉄	87.5×72.5×12.0	富山県立近代美術館
12	Link 3	1994(平成6)年	ラッカー, 木・鉄	87.5×72.5×12.0	富山県立近代美術館
13	Link 4	1994(平成6)年	ラッカー, 木・鉄	81.0×72.0×12.0	富山県立近代美術館
14	Bronze A	1994(平成6)年	ブロンズ	34.5×25.5×4.0	個人蔵
15	Bronze A.V.	1994(平成6)年	ブロンズ	34.5×26.0×3.4	個人蔵
16	Bronze B	1994(平成6)年	ブロンズ	34.5×25.5×4.0	個人蔵
17	Bronze B.V.	1994(平成6)年	ブロンズ	34.5×26.0×4.5	個人蔵
18	Bronze C	1994(平成6)年	ブロンズ	47.7×36.5×4.5	個人蔵
19	Bronze D	1994(平成6)年	ブロンズ	48.0×36.5×4.5	個人蔵
20	Bronze G	1994(平成6)年	ブロンズ	48.0×38.0×4.5	個人蔵
21	Bronze I	1994(平成6)年	ブロンズ	48.0×38.0×4.3	個人蔵
22	Bronze J	1995(平成7)年	ブロンズ	80.3×65.2×8.6	個人蔵
23	Black Boxes	1995(平成7)年	ラッカー, 木(合板ほか)・ボルト	c.270.0×390.0×300.0	千葉市美術館

## 斎藤義重と千葉—写真から—

斎藤義重は貧困と病苦の中、1954(昭和29)年に知人の紹介により東京を離れ、千葉県浦安町堀江の診療所に寄寓した。しばらくの間は制作に本腰を入れず、散歩を中心とした生活を送り、体の回復に努めていた。57年、第4回日本国際美術展に出品した《鬼》(現・神奈川県立近代美術館蔵)によりK氏賞を、同年開催された『今日の新人57年展』に出品した《作品 1》(現・新潟県立近代美術館蔵)で新人賞を相次いで受賞した。とりわけ、後者の受賞は1930年代から作品を発表していた斎藤を知る者にとって、驚きだった。

今回、関係者の御厚意で1957(昭和32)年頃、浦安で撮影されたスナップを紹介する。個人蔵の写真は恐らく『藝術新潮』1958年2月号の際のものと思われるが、撮影者・詳細共に不明である。また、同時期に若い芸術家のグループ「実験工房」が浦安の斎藤を訪ねた記録写真も残されており、これらの写真は芸術家の一時期の記録としてだけでなく、喪われてしまった浦安の風土を知る上でも貴重なものとなっている。斎藤は1960(昭和35)年に東京へ転居し、浦安を離れた。

さて、千葉市美術館に斎藤義重は自作の展示のために1995(平成7)年と翌96年の2度訪れている。その展示記録からは、《Seisaku ing》(本館蔵)の可変性が良く理解できる。

p-1	撮影者不詳 斎藤義重(舟)	1957(昭和32)年頃	ゼラチンシルヴァープリント	24.9×18.5	個人蔵
p-2	撮影者不詳 斎藤義重(寄寓先にて)	1957(昭和32)年頃	ゼラチンシルヴァープリント	25.0×18.9	個人蔵
p-3	撮影者不詳 斎藤義重(寄寓先の診療所協にて)	1957(昭和32)年頃	ゼラチンシルヴァープリント	10.5×15.4	個人蔵
p-4	撮影者不詳 斎藤義重、ひとりおいて 岡本謙次郎(美術評論家)	1957(昭和32)年頃	ゼラチンシルヴァープリント	10.2×16.9	個人蔵
p-5	撮影者不詳 斎藤義重、岡本謙次郎 (美術評論家)	1957(昭和32)年頃	ゼラチンシルヴァープリント	7.2×11.2	個人蔵
p-6	大辻清司(撮影) 斎藤義重を訪ねた 実験工房のメンバーと 濱田濱雄、瀧口修造	1957(昭和32)年冬	ゼラチンシルヴァープリント	23.2×23.0	千葉市美術館
p-7	大辻清司(撮影) 大日方欣一、 東京バブリッシングハウス (制作・監修) “eyewitness”より 斎藤義重、瀧口修造と 山口勝弘	1957(昭和32)年冬	ゼラチンシルヴァープリント	14.9×21.2	千葉市美術館
p-8	内田芳孝(撮影) 千葉市美術館にて作品 展示中の斎藤義重 1995年9月28日	1995(平成7)年	ゼラチンシルヴァープリント	(13.8×21.8)×3 (21.8×13.8)×2	千葉市美術館
p-9	内田芳孝(撮影) 千葉市美術館にて作品 展示中の斎藤義重 1996年7月29日	1996(平成8)年	ゼラチンシルヴァープリント	(13.8×21.8)×2	千葉市美術館

会場：千葉市美術館8階第1~4展示室

会期：2012年8月9日(火)~10月2日(日)